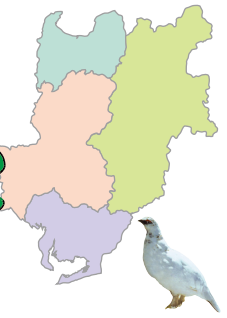




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

http://rinya.maff.go.jp/chubu/



左：長野駅前ビルにて行った催しの一コマ
右：木工工作コンクール表彰式で中部森林管理局長賞を授与する森林整備部長（上）、記念撮影（下）



2011・国際森林年

木づかい推進月間について

～民国連携で木材利用の普及啓発～

(P2に関連記事)

主な項目	○ 木づかい推進月間における取り組み …………… P2
	○ 森林計画に関する地域住民との懇談会を開催…………… P3～4
	○ 風景紀行「富士見台と神坂大櫓」…………… P8

木づかい推進月間 における取り組み

民国連携による

活動実施

「販売課」中部局では、「木づかい推進月間」が展開されている十月において、長野県が定める「ふるさとの森林づくり県民運動推進強調月間」と合わせ、民国連携による森林づくりへの参加や木材利用への理解を深めていただくことなどを目的に、長野林政協議会活動の一環としてパネル展示やイベントを実施しました。

昨年引き続き二回目となる本展示は、十月十六日(土)から十月三十一日(日)までの間、長野駅前ビルの「MIDORI」五階特設会場において、森林の働きや役割、地域材利用や国有林の取組についてパンフレットやパネル、木工品などを展示しPRしました。また、三十日(土)と三十一日(日)には、カンナ屑プール・ウッドイフ笑いやマイ箸作りなどを通じて木に直接触れて、木の香やぬくもりを体感してもらい、森林の大切さ・地域材の利用などについて普及啓発活動を行いました。



カンナ屑プールで楽しむ子供

また、十一月三日(水)「文化の日」には長野県木材青壮年団体連合会主催による木工工作コンクールの表彰が軽井沢町「脇田美術館」で実施され、「夢の秘密基地」を題材に中部森林管理局長賞を受賞した小学六年生の勝野仁美さんに森林整備部長から賞状の授与が行われました。今後においても、木づかい推進月間などについては、民国連携によるより効果的な活動の推進を引き続き実施していくこととしております。

さらなる木材の利用促進に向けて

「木の日」の要望活動を実施

「名古屋事務所」木づかい推進月間中の十月十八日(月)に、岐阜県木材利用推進協議会(後藤直剛会長)と名古屋事務所が連携し、木材利用の推進に関する要望



名古屋事務所副所長(岐阜県庁)による要望活動

活動を行いました。

岐阜県副知事をはじめ、県議会議員、林政部に対して、「木材の利用推進に関する要望書」を手渡しして、公共建築物の木造化、公共工事における木材利用促進、県産材を使用した木造住宅の建設促進、さらには、森林整備のための路網開設の重要性を訴え、理解と支援をお願いしました。

木質バイオマスエネルギー

の利用拡大に向けて

「南信署」十月十七日(日)、長野県富士見町にある西岳国有林内の遊々の森「多摩市民の森」で、東京都多摩市の市民ボランティア、多摩市・富士見町職員、上伊那森林組合や当署職員約四十名が参加して、間伐材の搬出作業を実施しました。この作業は、木質バイオマスエネルギーの利用拡大に向けた森林ボランティア活動として平成十七年度から始まったもので、今回で六年目となります。

搬出した間伐材は、本年の六月から七月までの間に、同遊々の森で多摩市の小学生が間伐体験で伐倒したものです。

参加者は、一・六歳に玉切り集積してあったカラマツ材等約二十五立方メートルを人力で林地から林道端まで搬出しました。林道端からはトラックにより伊那市内の上伊那森林組合に運び、ペレット燃料に加工されることとなります。



丸太を担いで搬出しトラックに積み込むボランティア

表鈴木氏から「この活動が間伐材の有効利用、ひいては緑の資源を活かした循環型社会への貢献に繋がらないかと考えている」との挨拶をいただきました。この作業を通じて、上・下流の連携を深めつつ、木質バイオマスエネルギーの利用が増えること、木づかい運動が国民全体に広がることをこの地で作業してきた千名を超える小学生や関係者は期待しています。

「森林ボランティア・NPO 連携推進会議」を開催

【指導普及課】

「木曾森林環境保全ふれあいセンター」

十月一日（金）・二日（土）の二日間、中部森林管理局管内（長野、愛知、富山、岐阜各県）で活動している森林ボランティア団体・NPO等が一堂に会して、団体等のさらなる資質の向上と連携強化を図るとともに、広く一般市民の皆さんに、国民参加の森づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPRすることを目的とした、COP10パートナーシップ事業「森林ボランティア・NPO連携推進会議」が、松本市の後援により、長野県松本市のアルプス公園において開催され、管内の国有林、民有林等で活動している森林ボランティア団体やNPO等、十九団体（五十七名）と局署等の職員、合わせて総勢七十六名が参加しました。



ミニゲームにより参加者の気持ちを一体に

一日目は、意見交換や情報交換を通じ、各団体間や局署職員の資質向上と連携強化を図ることを目的にフリートークによる意見交換会を開催し、参加者の皆さんが六班に分かれ、冒頭のアイスブレイク（ミニゲーム）により、参加者の気持ちを和らげ、仲間意識や雰囲気醸成を図った後、各団体の現況報告、抱えている問題点や悩み、意気込みや価値観などの意見や、また、解決策や同調する意見など活発な話し合いが行われ、最後に各班の代表者からトーク内容の報告があり、全員で話の共有を図るとともに、各団体、参加者同士の交流を深めました。

二日目は、自然とのふれあいや、森の木々や自然の恵みを使った様々な遊びや体験・学習を通じ、森の大切さや役割、また、森林ボランティア・NPO団体等の活動や取組について、多くの皆さんに理解を深めていただくことを目的に、一般市民を対象にワークショップを展開するイベント『森・ふれあいフェスタ』自然と遊ぶ『森に学ぼう』が開催され、青く澄み渡った秋晴れの下、多くの親子・家族連れが会場であるアルプス公園を訪れ、「わら細工」、「ドバースアート」、「ブリッジ積木」、「竹とんぼ」、「丸太切りと薪割り」、「ミニチュアハウス」、「かんなくずプール」、「ウッドイフ笑笑」、「森の宝もの探し」、「自然観察とクラフト」、「チェーンソーアートの実演」の計十一のワークショップに、延べ千名の一般市

民の皆さんが参加しました。

スタッフの皆さんは、押し寄せた大勢の来場者に、汗だくとなりながらも、安全面に細心の注意をはらい、また懇切丁寧に子ども達に接し、森の大切さや国民参加の森林づくり、森林環境教育をPRすると同時に、各団体の活動や存在をおおいにアピールしました。

一方、体験している子ども達も満面の笑みを浮かべ、笑い声が飛び交い、親子・家族の皆さんも、揃って終始和やかに、そして真剣に取り組んでいる姿が見受け



竹とんぼづくりに夢中



親子で丸太切り体験



参加者（団体）の皆さん

森林計画に関する地域住民との懇談会を開催

会場全体が活気に溢れ、終了間際になっても参加者が絶えず、大変盛況で充実したフェスタとなりました。

「計画課」十月三十日（土）に岐阜県下呂市小坂町、十一月三日（水）に富山県立山町、十一月七日（日）に長野県上松町において、「森林計画に関する地域住民との懇談会」を開催しました。

国有林では、管理経営の方針、方法を明らかにするため、五年を一期とした「地域管理経営計画」、「国有林野施業実施計画」を五年毎に策定し、これに基づき管

理経営を行っています。今回の懇談会は、平成二十三年度に策定し、平成二十四年度に計画期間がスタートする神通川森林計画区（富山署管内）、木曾谷森林計画区（木曾署・南木曾支署管内）、飛騨川森林計画区（岐阜署管内）において、計画の策定作業に先立ち、地域住民の方々に地域の国有林を知っていただくとともに、国有林への関心や期待、意見を伺うことを目的としています。

当日は、まず、国有林の現地において、森林の現況や間伐事業実行箇所、レクリエーション利用の状況などを見学して、国有林に対する理解を深めていただきました。

その後、懇談会会場へ移り、森林計画区の概要や森林管理署において日頃取り組んでいる事柄の話題提供を行ってから、参加者の皆さんから発言をいただきました。会の進行は森林に関する有識者や地域の国有林アドバイザーにお願いし、様々な意見を引き出していただきました。

計画区によりそれぞれ特徴がありますが、参加者の皆さんからは、「観光化しすぎず、自然を守る対策や広葉樹林の増加を希望する」「民国連携しながら森林施業を進めてほしい」「長期的な視点に立ち森林整備を進めること」「国有林についてもっとPRをすべきである」等の意見が出され、大変有意義な会となりました。

今回いただいた地域の意見・要望は、これからの森林計画の策定作業に活かし、より良い計画となるよう、努めていきたいと考えています。



現地見学会の様子（飛騨川森林計画区）



懇談会の様子（神通川森林計画区）

各地からのたより

地元中学生が職場体験学習

汗を流し森林・林業を学ぶ

【北信署】十月二十六日（火）・二十七日（水）の両日、飯山市立城北中学校二年生六名が職場体験学習のために当署を訪れました。

これは、中学校教育活動の一環で、各職場を訪問し、その仕事を体験する中で将来の進路選択の一助とするために行われているものです。

体験初日は、職員から二時間程度日本の森林・林業及び森林管理署の仕事について総体的な説明を受けた後、高社山国有林の高性能林業機械を使用したスギ、カラマツ素材生産事業箇所等を視察しました。



林業機械に見入る中学生



木材の流通加工について学ぶ

現地では、チェーンソーによる伐倒作業やスウィングヤーダーによる集材作業、さらに伐倒された木がプロセッサにより丸太にされ、フォワーダにより土場まで搬出されるのを目の当たりにするとともに、実際にノコギリを使って木を伐倒する体験に汗を流しました。

二日目の午前中は、時折雪が降る中、多様な森林が広がる戸隠・大峰自然休養林内の戸隠森林植物園などを二時間程かけて散策し、森の空気、木の香り等を肌で感じながら、森林の生態・機能を学びました。午後は、長野市にある北信木材生産センター協同組合にて、丸太のはい積み作業やプレカット製品を見ながら、木材の流通や加工について説明を受けました。

後日、生徒、学校からお礼の手紙が届